

短・中期評価（意識・行動の変化）

■「ちちぶお茶のみ体操」 開催回数と実践者数

図表⑪

区分	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
開催回数	91回	65回	52回	235回	570回
実参加人数	2065人	1794人	1557人	5494人	10,680人

データ：地域医療対策課

- 「茶トレ」の認知度 74%（2019年：老人クラブアンケート）
44%（2019年：市民アンケート）
- 「茶トレ」実践者の割合 43%（2019年：老人クラブアンケート）

■「ちちぶポテくまくん健康体操」 開催回数と実践者数

図表⑫

区分	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
開催回数	—	—	77回	224回	562回
実参加人数	—	—	2,116人	4564人	10,354人

データ：秩父市地域包括支援センター

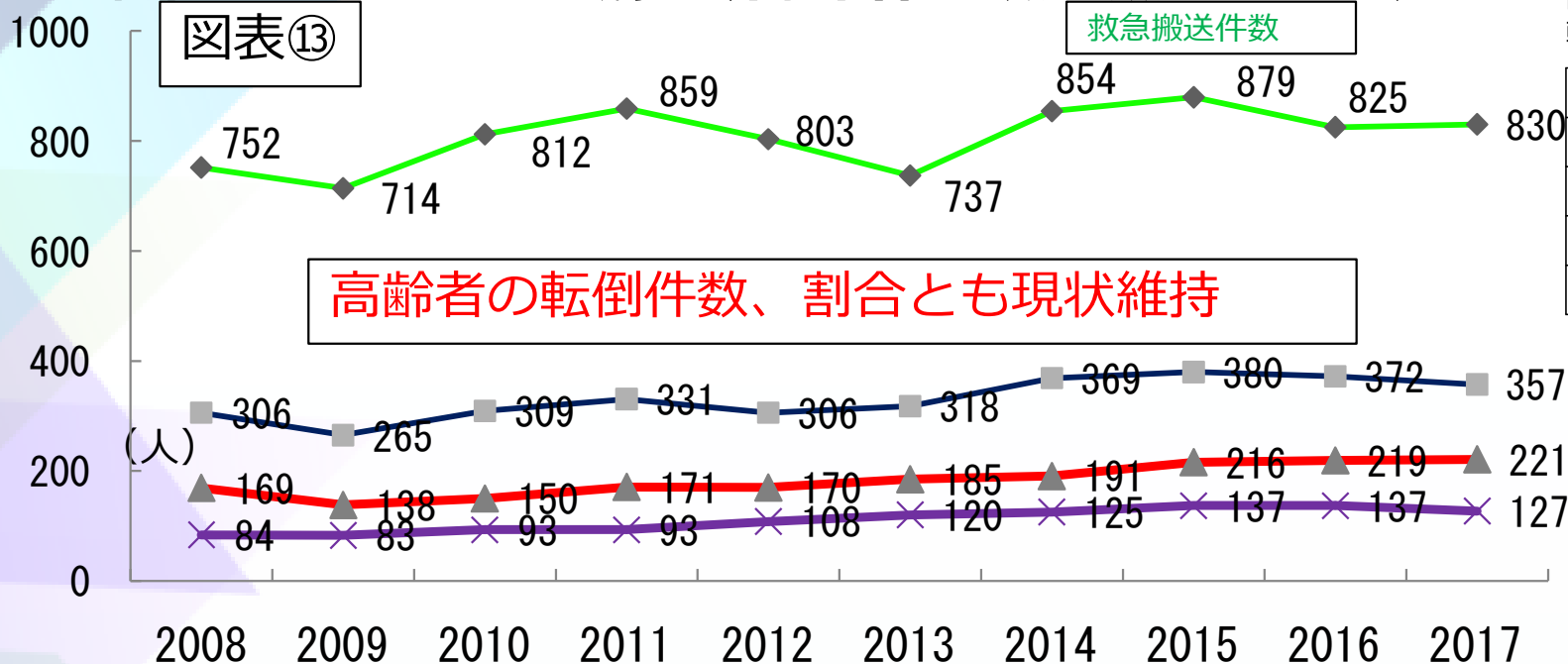
- ちちぶポテくまくん健康体操の認知度 51%（2019年：老人クラブアンケート）

長期評価（状況の変化）と現状

■転倒によるケガの減少（高齢者の救急搬送データ）

高齢者人口（各年4月1日現在）と
転倒・転落の割合

年度	人数	割合
2014	19,083	1.00%
2015	19,597	1.10%
2016	19,872	1.10%
2017	20,107	1.09%



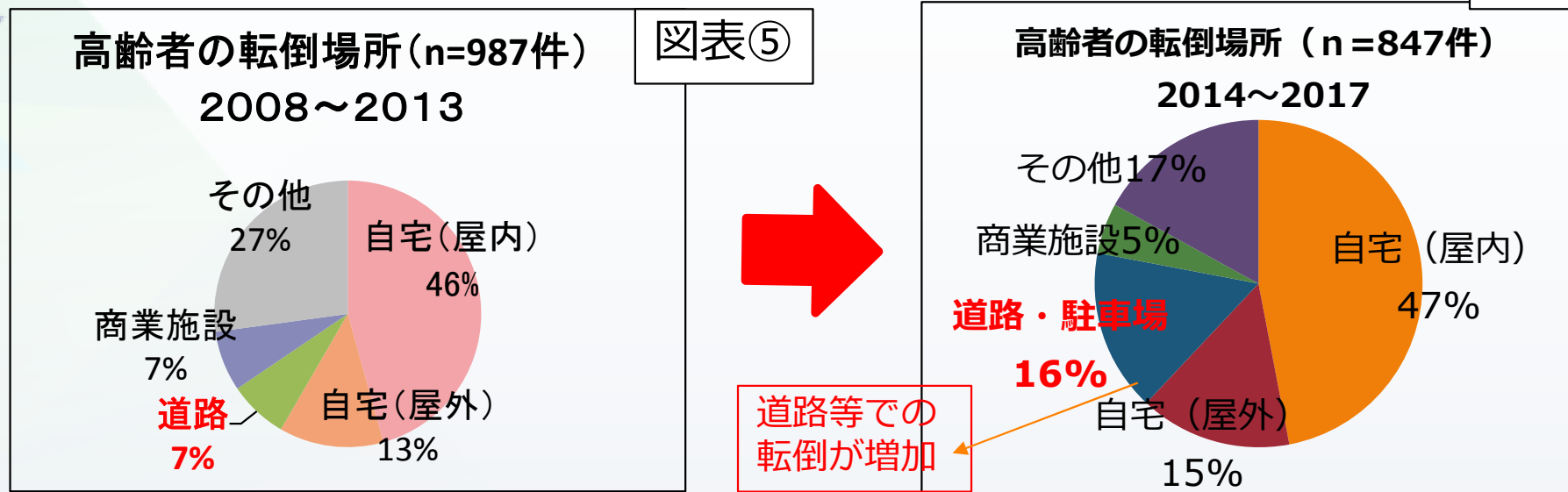
高齢者の救急搬送件数

高齢者の転倒・転落件数

高齢者自宅内の転倒・転落件数

■現況（取組み後の傾向：高齢者の救急搬送データ）

図表⑭



②住環境整備の啓発（継続）

課題	①自宅での「転倒・転落」による救急搬送件数が多い ②転倒に不安がある人が多い	
方向性	自宅での転倒を減らす	
内容等	【内容】	家庭内のケガの実態を調査したリーフレットを作成・配布し、住環境の整備を啓発する。
	【対象】	高齢者
	【対策委員会の役割】	取組みの実施 ①家庭内のケガの実態を把握するためのアンケート調査の実施 ②転倒予防リーフレットの作成・配布
（短期評価） 態度・行動の変化	【指標】 自宅内危険箇所の認識割合	【測定】 アンケート調査
（中期評価） 態度・行動の変化	【指標】 自宅内危険箇所を改善した人の割合	【測定】 アンケート調査
（長期評価） 状態・状況の変化	【指標】 高齢者の自宅内の転倒による受傷件数	【測定】 救急搬送データ

取り組み2

住環境の整備

危険な箇所ランキングを掲載

図表⑯

年度	実績
2014	ケガの実態調査 (500人)
2015	啓発チラシ作成 5,000枚 (東洋大協力)
2016	老人クラブ連合会・敬老会で、
2017	リーフレット配布
2018	リーフレット見直し (東洋大協力)

認証後



簡易対策を掲載

図表⑰

ちちぶお茶のみ体操を掲載




短・中期評価（意識・行動の変化）

■家庭内危険箇所の認識の割合

図表⑱

区分	住まいの中で危険だと感じる箇所	
	ある	ない
2016年	32%	68%
2019年	77%	23%




参考：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

リーフレットの認知度60% リーフレットの認知者のうち危険箇所を認識した人92%

■危険箇所を改善した人の割合

図表㉑

区分	安全のために住まいを改善した	
	ある	ない
2016年	30%	70%
2019年	36%	64%



参考：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

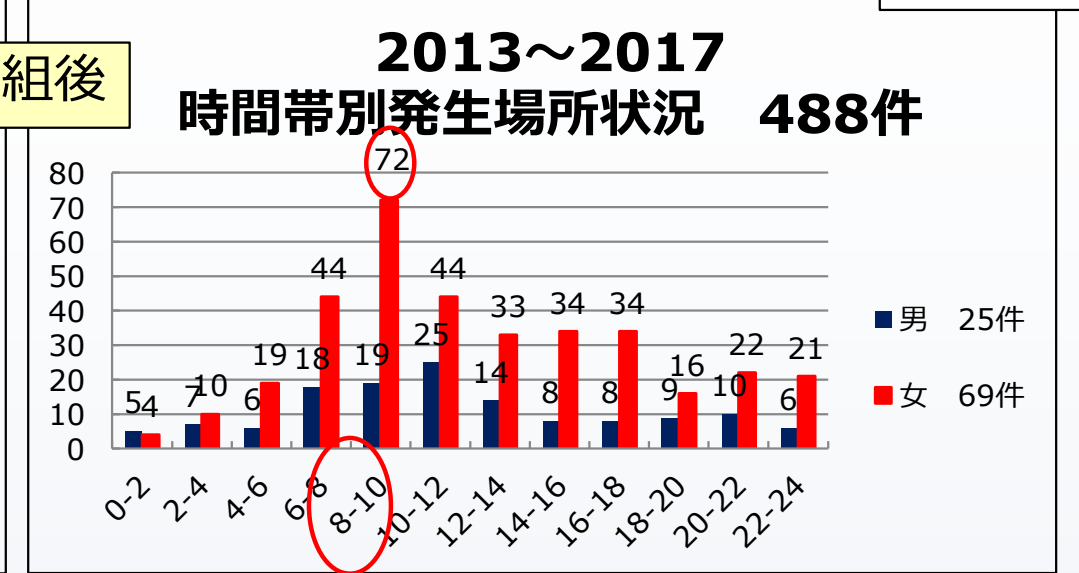
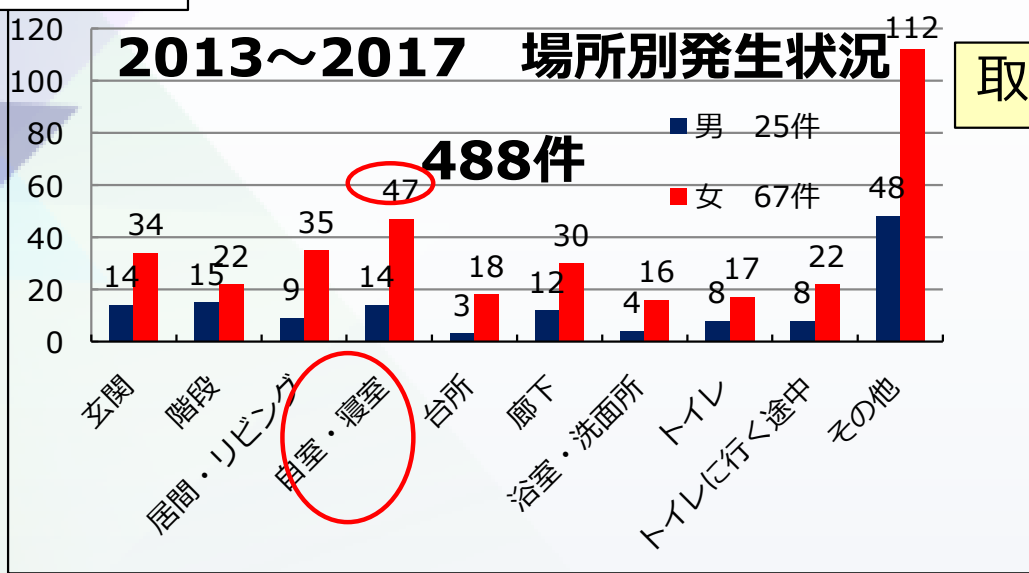
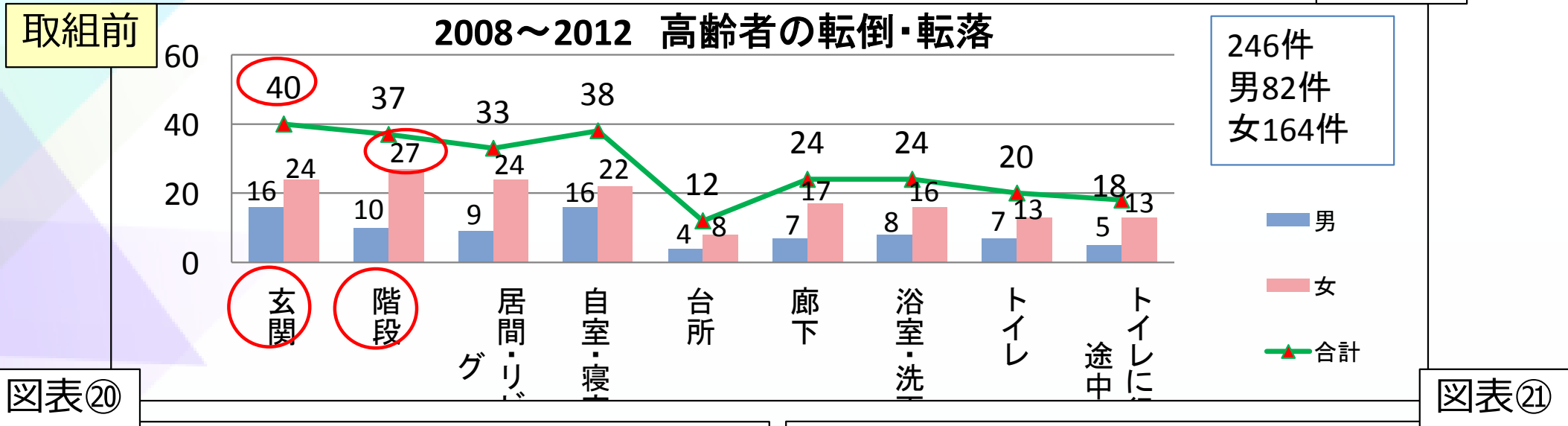
安全のために住まいを改善した66%

長期評価（状況の変化）と現況

■高齢者の家庭内での転落・転倒によるケガ(長期評価) → ※現状維持

■現況(救急搬送データ)

図表⑥



出典：救急搬送データ

見直しした転倒予防リーフレット

ちちぶお茶のみ体操を掲載

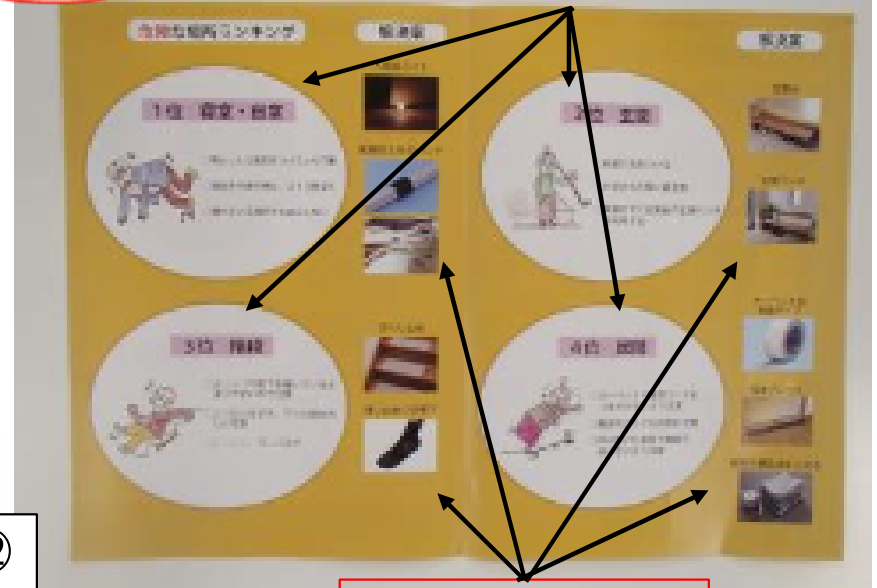


朝、寝起きのよろけ注意

女性注意

New

危険個所ランキング

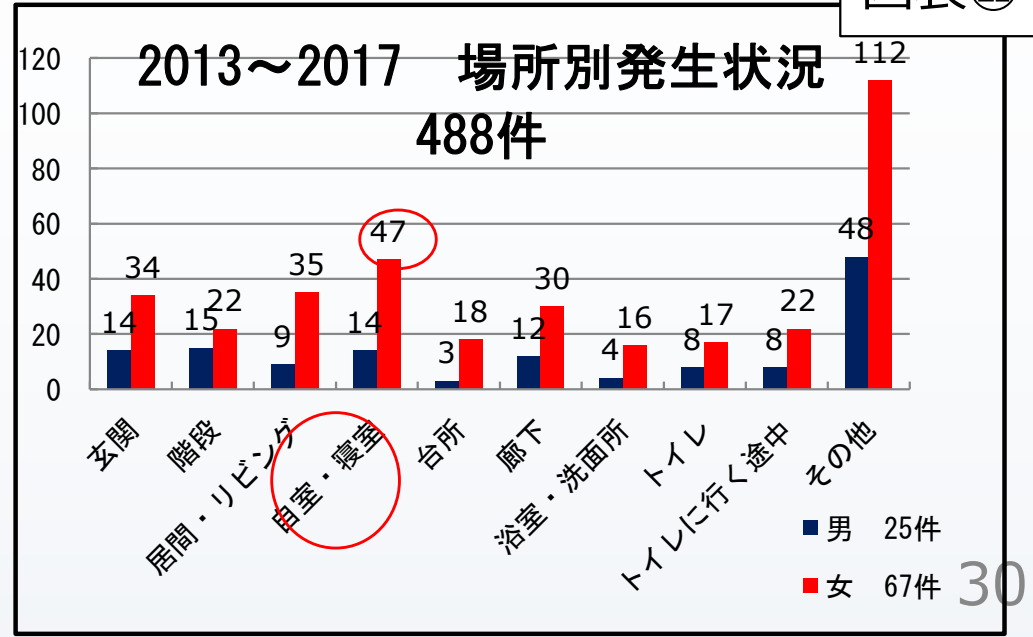
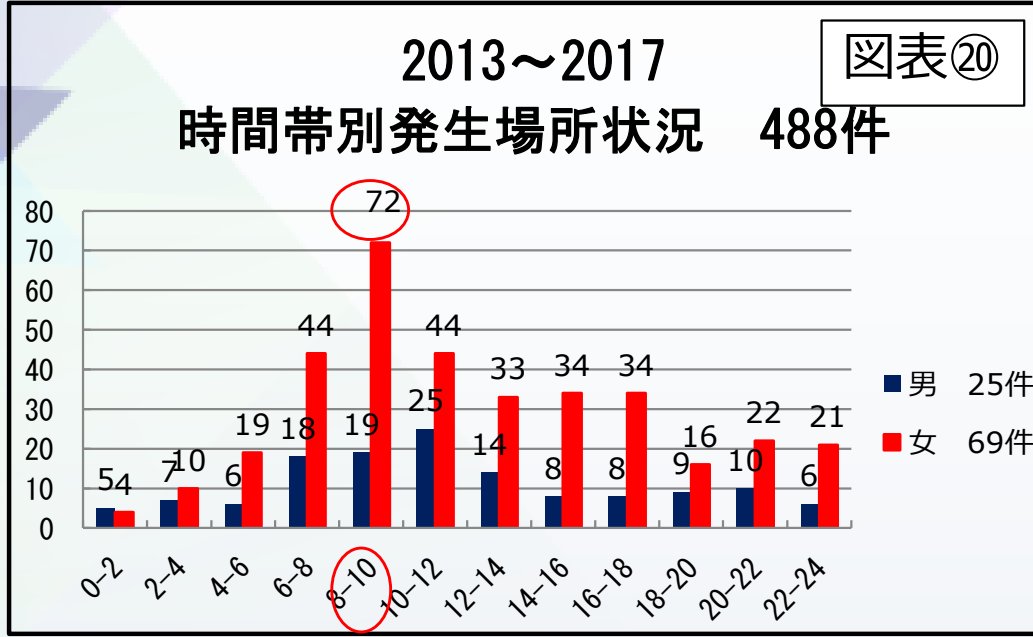


簡易対策を掲載

図表②

高齢者の家庭内での転落・転倒によるケガの現況

図表①



③見守り活動（ふれあいコール）の充実（継続）

課題	③ひとり暮らし世帯の増加 ④支援を求めている高齢者が多い	
方向性	見守り活動の充実	
内容等	【内容】	単身高齢者などを対象に、本人に気づかれないようにそっと見守る「ふれあいコール」を充実（回覧板を手渡しするなど）させる
	【対象】	単身高齢者等
	【対策委員会の役割】	取組みの支援 ①見守り実施者へ回覧板の手渡しの呼びかけ ②ふれあいコールを充実させるためのアンケートの実施
（短期） 意識・知識の変化	【指標】 見守りする人の意識向上	【測定】 アンケート調査
（中期） 態度・意識の変化	【指標】 見守り対象者の近所つきあい等を向上させた割合	【測定】 アンケート調査
（長期） 状態・状況の変化	【指標】 高齢者の不安感の減少	【測定】 アンケート調査

取り組み3

■ふれあいコール（見守り活動）の充実 ふれあいコールの様子

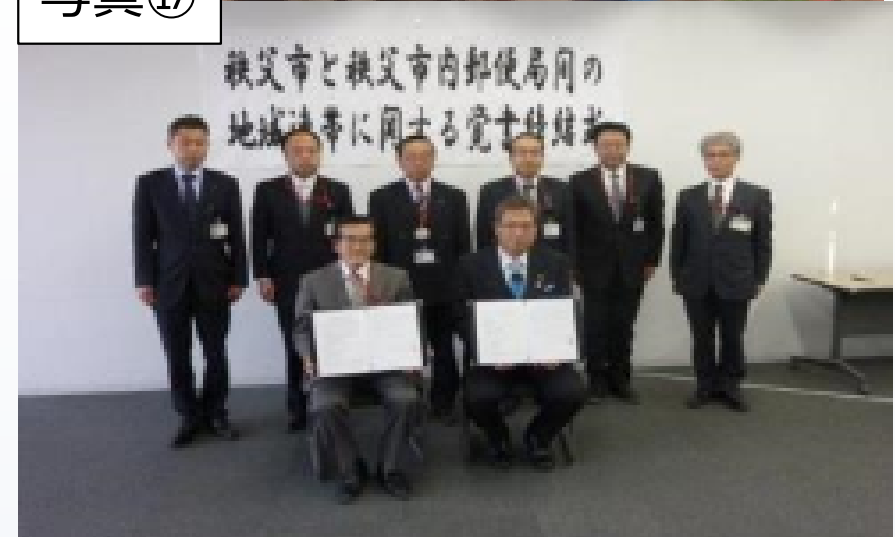
図表⑳

年度	見守対象者 (町会からの報告数)	見守実施者 (各年度4月1日) (民生委員、在宅福祉員等)
2014	1,750人	623人
2015	1,813人	627人
2016	1,977人	628人
2017	2,218人	629人
2018	2,197人	632人

写真⑯



写真⑰



SC認証後

ふれあいコールを充実させるためのアンケートをモデル地域へ実施

郵便局との締結式

※事業者との見守り協定の締結（郵便局ほか31事業者）

短・中期評価（意識・行動の変化）

■見守りする人の意識向上

図表⑭

区分	見守りに対する認識の向上	
	向上した	変わらない
2019年	81%	19%

※回覧板の手渡し、声かけを意識的に行っている89%

■近所つきあいを向上させた人の割合

図表⑮

区分	見守り対象者の行動（実施者の主観）			
	家を行き来する	立ち話をする	あいさつをする	ほとんどつきあわない
2019年	19%	62%	19%	0%
2019年 市民アンケート	25%	51%	21%	3%

※見守り対象者から声をかけてくれる機会が増えた（見守り実施者の主観）85%

長期評価（状況の変化）と現況

■単身高齢者の不安感

地域で安心して暮らし続けるための支援活動として期待されていること

図表②⑥	項目	2011年 (人数・%)	2016年 (人数・%)
	ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人への声かけや話し相手	692人(59.8%)	539人(53.8%)
	介護が必要な人や障がいのある人の短時間の預かり	263人(22.7%)	170人(17.0%)
	乳幼児の短時間の預かり	199人(17.2%)	173人(17.3%)
	子育てサロンなど子育て家庭の相談・仲間づくりの活動	247人(21.3%)	209人(20.9%)
	高齢者が集える「ほっとサロン」などの活動	333人(28.8%)	271人(27.1%)
	ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の買い物、ごみ出し等の手助け	459人(39.6%)	351人(35.1%)
	ねたきり高齢者や障がいのある人のお世話	279人(24.1%)	167人(16.7%)
	ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の庭の手入れや簡単な日曜大工	312人(26.9%)	231人(23.1%)
	ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の緊急時の連絡・応対	530人(45.8%)	396人(39.6%)
	福祉施設での手伝いや話し相手	218人(18.8%)	138人(13.8%)

高い
順位

割合は
減少

出典：地域福祉に関する市民意識調査

■現況(市民アンケートによる高齢者の近所つきあい)

図表②⑦

区分	家を行き来する	立ち話をする	あいさつをする	ほとんどつきあわない
2013年	40%	41%	17%	2%
2016年	26%	50%	21%	3%
2019年	25%	51%	21%	3%

疎遠
傾向

出典：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

④高齡者サロンの設置（継続）

<p>課題</p>	<p>③ひとり暮らし世帯の増加 ④支援を求めている高齢者が多い</p>	
<p>方向性</p>	<p>見守り活動の充実</p>	
<p>内容等</p>	<p>【内容】</p>	<p>地域単位でサロンをつくり、高齢者同士の見守り活動の拠点とする。また、人との交流やサロンの参加が健康にプラスとなるとの根拠に基づき、取組みを推進する。</p>
	<p>【対象】</p>	<p>高齢者</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みの支援 ①サロン活動設置の推進 ②委員の各団体及び市報にてサロン設置の呼びかけ</p>
<p>（短期） 意識・知識の変化</p>	<p>【指標】 サロン設置数の増設</p>	<p>【測定】 サロン設置数</p>
<p>（中期） 態度・行動の変化</p>	<p>【指標】 サロン参加者の増加</p>	<p>【測定】 サロン参加者数</p>
<p>（長期） 状態・状況の変化</p>	<p>【指標】 高齢者の不安感の減少</p>	<p>【測定】 アンケート調査</p>

取り組み4

■高齢者サロンの設置

写真⑱



サロン活動の様子

SC認証後

- ①サロン活動が立ち上がり、参加者が増加
- ②サロン参加者が地域貢献の取組を行う「一歩進んだサロン」を研究
- ③犯罪防止（高齢者の万引き）対策委員会との連携研究。普段活動に参加しない高齢者をサロンに参加させ、心の充実感を引き出し、万引きの抑制につなげる。

写真⑲



短・中期評価（意識・行動の変化）

■サロンの設置数・参加者の増加

図表⑳

年度	設置団体	実人数
2014	実態調査 (モデル地区の事例収集)	-
2015	モデルサロンの募集・開設	-
2016	30団体	195人
2017	51団体	483人
2018	74団体	1,466人

認証後

データ提供：秩父市包括支援センター

参考：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）
サロンに参加している人42% 今後参加しようと思う人31%

参考：2019年安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート
サロンの認知度33% サロンに参加している人6%

長期評価（状況の変化）と現況

■単身高齢者の不安感

地域で安心して暮らし続けるための支援活動として期待されていること

図表③⑩

図表②⑨

区分	高齢者が集える サロン活動
2011年	29% 第4位
2016年	27% 第4位

区分	サロン活動が高齢者の不安 の軽減につながる	
	思う	思わない
2019年	84%	16%

出典：地域福祉に関する市民意識調査

出典：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

参考：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

サロンに参加者の感想（複数回答可） ①友達が増えてうれしい53% ②活動が楽しい48% ③生きがいとなっている18% ④一人であることの不安が解消した11% ⑤その他3%

■現況（サロン活動に参加しようと思わない理由）

図表③⑪

区分	サロン参加しようと思わない		
	興味がない	つきあいが面倒	その他（十分つきあっているなど）
2019年	45%	32%	23%

出典：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

⑤高年齢者の交通マナーに関する情報収集（継続）

課 題	交通ルールを守ら（れ）ない高齢者が多い	
方向性	交通安全意識の啓発	
内容等	【内容】	高齢者の交通マナーに関するデータが存在しなかったため、アンケートにより実態を把握し、交通安全教室に反映した。
	【対象】	高齢者
	【対策委員会の役割】	取組みの支援 ①高齢者の交通安全意識アンケートの実施 ②アンケート結果の交通安全対策委員会への提供【高齢者の交通安全教室で結果を活用した意識改善の実施】
（短期） 意識・知識の変化	【指標】 交通安全意識の向上	【測定】 アンケート（老人クラブ連合会）
（中期） 態度・行動の変化	【指標】 反射材を着用するなど、安全行動をした人数	【測定】 アンケート（老人クラブ連合会）
（長期） 状態・状況の変化	【指標】 高齢者の交通事故の減少	【測定】 警察データ

取り組み5

交通安全に対する意識の啓発

図表③②

写真⑳

アンケート実施



認証後

写真㉑

New



高齢者の交通安全教室

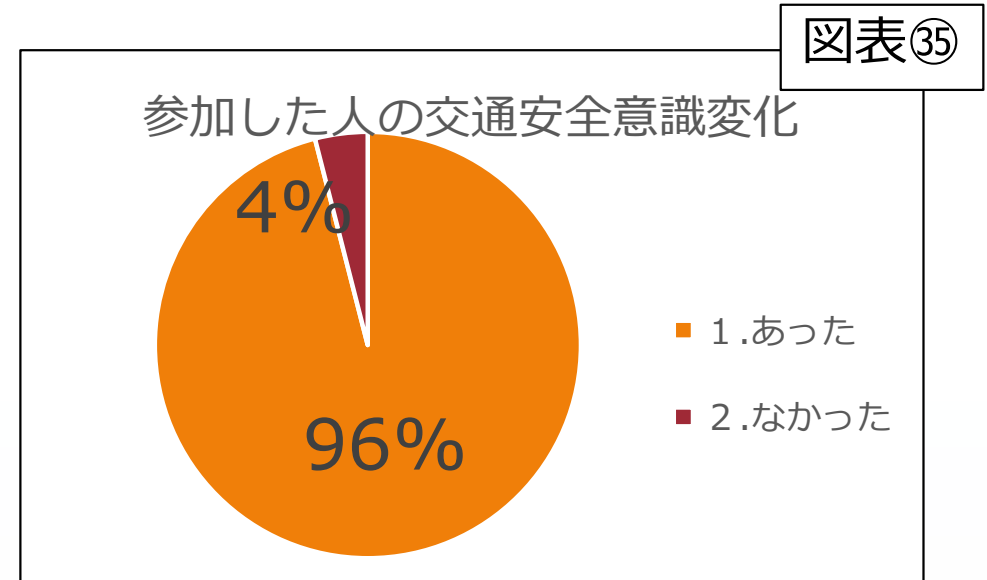
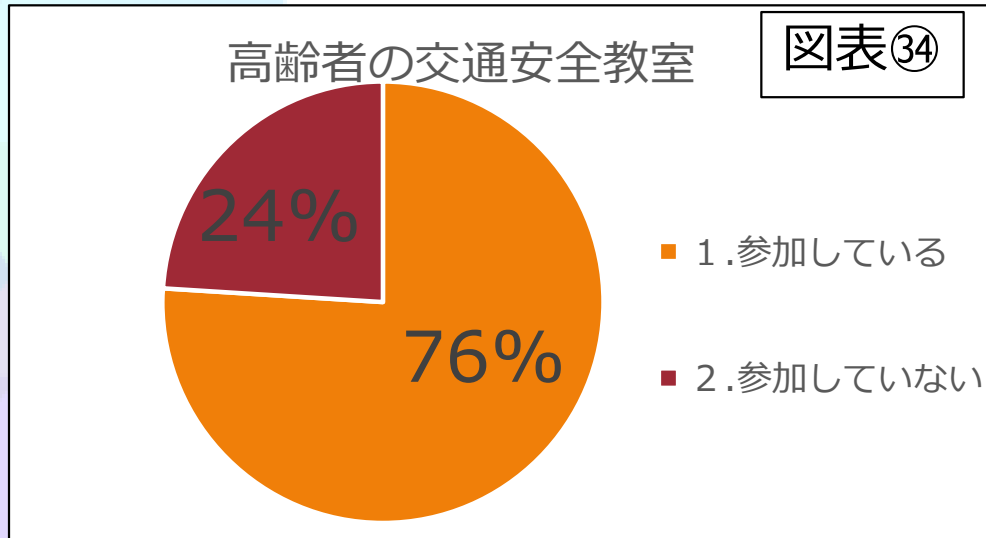
年度	活動実績
2014	アンケート実施 (500人)
2015	高齢者の交通安全教室にて、 アンケートを活用した講話 プログラムを実施
2016	—
2017	—
2018	アンケート実施 (360人)

図表③③

高齢者の交通安全教室実績		
2014	32回	1,070人
2015	37回	1,159人
2016	38回	1,254人
2017	39回	1,264人
2018	46回	1,307人

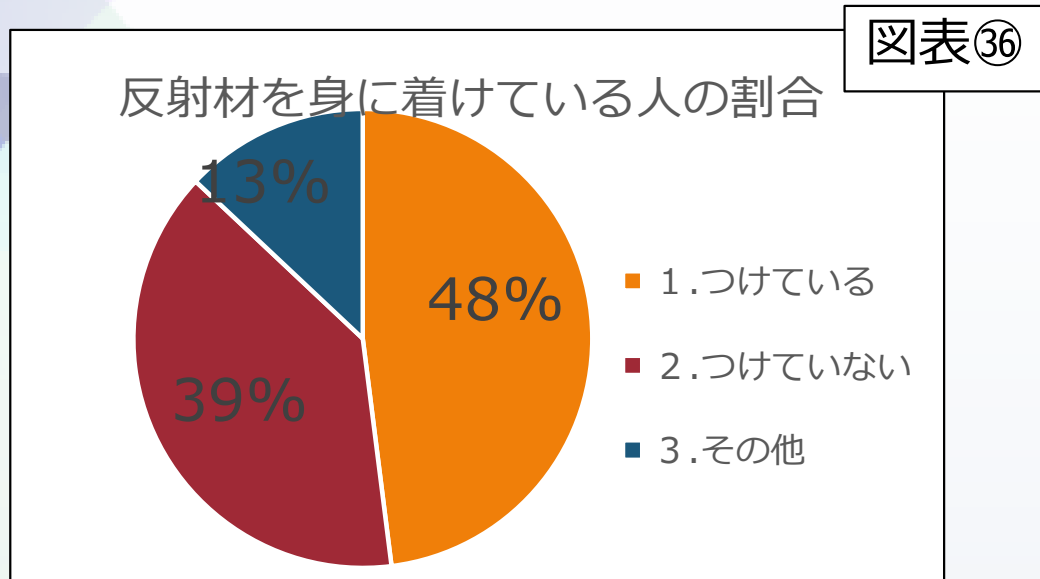
短・中・長期評価（意識・行動・状況の変化）

交通安全意識の向上



出典：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

反射材を着用した人の割合



高齢者の人身交通事故件数

図表③⑦

区分	事故件数
2014	84
2015（認証）	78
2016	74
2017	84
2018	58

出典：2019年老人クラブ連合会アンケート（回答者360人）

出典：秩父警察署

まとめ 1 (評価による振り返り)

	成 果
転倒予防	<ul style="list-style-type: none">★講習会やサロンとしての転倒予防運動が活発化してきている。★後期高齢者が増える中、高齢者の転倒・転落件数が現状維持を保っている。
見守り活動	<ul style="list-style-type: none">★見守りする人の意識が高くなっている。★見守りされる側の近所つきあいが向上されている。★地域でのサロン活動が活発化してきている。
交通安全	<ul style="list-style-type: none">★高齢者の人身交通事故件数が減少傾向にある。★交通安全意識が向上されている。

まとめ2 (評価による振り返り)

	課題
転倒予防	<ul style="list-style-type: none">①「ちちぶお茶のみ体操」は知っているのに、実践割合が低い。②普段活動に参加しない高齢者の家庭内危険箇所の認知度と改善割合が低い。
見守り活動	<ul style="list-style-type: none">★高齢者の近所付き合いが疎遠傾向にある。★普段活動に参加しない高齢者のサロン参加が少ない。
交通安全	<ul style="list-style-type: none">★反射材を身に着けている割合が低い。

課題（振り返り）への対応

転倒予防

- ★「ちちぶお茶のみ体操」の実施を繰り返し呼びかける。
- ★「転倒予防リーフレット」の配布と配布の際の内容説明に努める。
- ※子ども・交通安全対策委員会と事業連携した取組みの展開を研究中

見守り活動

- ★町内イベント、地域活動、活動団体への参加を呼び掛け、地域住民相互による互助関係を築いていく。
- ★サロン参加者からサロンの魅力を伝え、参加者を増やす呼びかけをしていく。

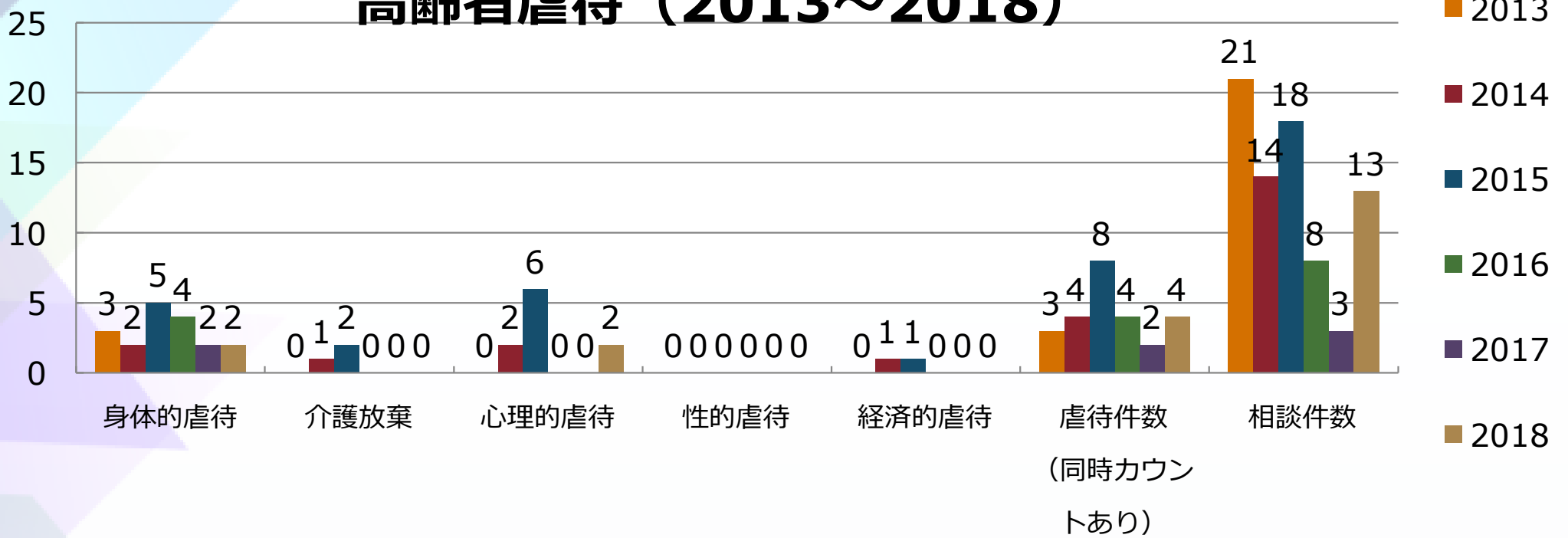
交通安全

- ★交通安全教室や関連するイベント等で反射材を配布し、その場でつけてもらう。

新規取組み：高齢者の虐待・徘徊

図表③⑧

高齢者虐待（2013～2018）



■通報体制の強化

虐待	徘徊
①泣き声や怒鳴り声が聞こえるなど普段と違う ②どうも様子がおかしい ③家族から放任や暴力を受けている様子がある など	①あまり、見かけない人がうろろうしている ②言っていることが不明である など

図表③⑨

様子のおかしい高齢者、障害者など

※見てみぬふりをしない

市地域包括支援センター、社会福祉協議会、警察署などへ連絡



国際認証都市
セーフコミュニティちちぶ



ご清聴ありがとうございました！